

# クローズアップ ⑦

## 手を伸ばすと雲を つかめそうです



あきら  
小野寺 晃さん (25歳)  
米山町・中新田

「棒一本で空に近づけて鳥になったような気分になりま  
す。高いバーをクリアしたと  
きは、それはもう快感です」  
小野寺さんは、中学から始  
めた陸上競技の棒高跳びで全  
国でも有名な選手です。  
9月に香川県で開催された  
「全日本実業団対抗陸上競技  
選手権大会」で、5メートルを跳び  
見事2位に輝きました。

「全日本実業団対抗陸上競技  
選手権大会」で、5メートルを跳び  
見事2位に輝きました。  
これまでもインターハイ、  
国体などの大会で常に上位の  
成績を収め、自己ベストは5  
メートル30(現在の宮城県記録)。中  
学から大学まで棒高跳び一筋  
で、社会人になった今もクラ  
ブチームに所属しています。  
現在は、米山高校で講師と  
して勤務、陸上部の顧問を  
しています。平日は部活動を指  
導した後の少ない時間で練習  
し、休日は宮城スタジアムな  
どで、クラブコーチの指導を  
受けています。



7月に行われた県陸上選手権大会での跳躍

時期がありました。辞めよう  
かとも思いましたが、日の丸  
を付けて跳ぶ夢をどうしても  
実現したく、また始めまし  
た」と話す小野寺さん。  
来年8月に行われるアジア  
大会の出場権を獲得するため  
には、まずは日本選手権制覇  
が条件。世界の舞台までと  
少しです。

# 文芸コーナー

## 短歌

貞任の歩みし大歩みわたせば  
すすきの波に消えゆくまぼろし

佐藤美穂子(石越)

喜寿米寿まだまだ余力昇り坂  
共に高砂九十九坂まで

吉田まさよ(迫)

豊富なる物に引き替え失なわるる  
思いやる心取り戻したし

千葉はしお(南方)

山の影映す五月田美しと  
行めば不如帰空高く翔ぶ

高橋 芳草(南方)

亡き母の年より二十年永らえて  
何をせしかと思ふおりふし

千葉みゆき(米山)

台風も逸れて稲穂の垂れる畔  
五位鷺の二羽鳴きもせず立つ

工藤ちよみ(米山)

臭覚の失せてなつかし山百合の  
香さがして花に顔寄す

伊藤 泰子(迫)

## 俳句

ランナーの音無き走り秋の雨

佐々木武子(中田)

亡き母の墓に戯る赤蜻蛉

近藤 讓行(中田)

葡萄食む只黙々と老ひ二人

千葉ともゑ(中田)

老いの身のコスモスの中歩きおり

佐々木ひろ子(東和)

神楽舞う女神の舞の首太し

高橋 良(登米)

炎天や子の歌捧ぐ御魂えと

鈴木とき子(中田)



卓球を楽しむOK会の皆さん



代表 菅原 美和子さん  
石越町・駅前  
連絡先 0228 (34) 2437

# サークル紹介

⑦

## 石越OK (オーケー) 会

「卓球で汗をかいて、みんなと楽しい話ができることが健康に一番。声を出して笑うことです」と話す菅原さん。  
5年前、町の健康診断で事後指導を受けた人たちが集まり、運動不足解消や健康づくりのために「OK会」を結成。卓球やレクダンスなどの軽スポーツを始めました。  
現在会員は町内の60歳以上の20人。最近は主に卓球で汗を流しています。

前半の1時間は、自由に対戦相手を見つけてプレー。30分間の休憩後、後半の1時間はじゃんけんでパートナーを決めて、ダブルスでゲーム方式。初心者の方が多いため、和やかな雰囲気です。プレーを楽しんでいます。  
この会の特徴は、休憩中にたくさんコミュニケーションをとること。手作りのおやつを持参し、お茶を飲みながら健康や料理などの話をして情報交換をします。中には卓球よりも情報交換を楽しみに来ている人もいます。  
会員の熊谷公子さんは「脳梗塞を患い、リハビリを兼ねて入会しました。卓球や会話を通じて、今では心身ともに健康です」と話します。  
「OK会」は毎週火曜日と金曜日、午前9時30分から正午まで、石越体育センターで活動しています。  
卓球と会話で健康づくりをしたい人は、菅原さんまでご連絡ください。

### ●●文芸作品募集●●

俳句、短歌、川柳いずれか1カ月1作品。締め切りは毎月10日。住所、氏名、電話番号を記入してご応募ください(作品には必ず読みがなを付けてください)。応募者多数の場合は抽選で掲載しますのでご了承ください。

【あて先】〒987-0511  
登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1  
登米市総務部総務課広報係  
☎0220 (22) 2090  
FAX0220 (22) 9164  
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp

※応募者多数のため抽選で掲載しました。ご了承ください。

栗駒山の移ろひ早しななかまど	佐藤やす子(中田)
手作りの急須の指紋秋簾	三浦 しん(中田)
耶蘇村の道に這い出す南瓜花	小野寺礼喜子(中田)
寝返りをうちつ暑さを裏返す	千葉かつ子(中田)
軒下に南瓜並べて村の寺	小野寺のぶ子(中田)
初秋刀魚海の鼓動が喉通る	麻喜リツ子(中田)
秋茗荷つみて蚊に追われけり	鈴木 千佳(東和)
世界的気候の異変台風禍	首藤 和子(東和)
寝ころぐば青ひといろに秋澄めり	佐藤 昌子(東和)
バス停に彩鮮やかな秋の薔薇	佐藤 ふみ(東和)
立秋といふ空の色仰ぎみる	松野 弥生(東和)
黄金田を今年台風それで行き	金光とし子(東和)
水澄むや箆持つ河童まだるたり	小野寺和彦(東和)
孫子等と余生を共に蕎麦の花	及川 寛志(東和)
雪しぐれ雁の行く末雲はるか	畠山 保治(東和)
転任の言葉短かく雁渡る	今野きよし(迫)
稲刈りを終えたる後に落穂見ゆ	中田まゆみ(迫)